三朝町地域協議会会長と三朝町教育委員との懇談会・会議記録

日　時：平成 30 年 6 月 2 日（土）午前 10 時開会
場　所：三朝町役場　第１会議室
出席者：西田教育長、藤井教育委員、芦田教育委員、中前教育委員、大丸教育委員
朝倉小鹿地域協議会会長、相見三徳地域協議会会長、藤井みささ村地域協議会会長
田栗高勢地域協議会会長、山﨑賀茂地域協議会会長、高見竹田地域協議会会長
事務局：藤井教育総務課長、青木地域振興監

西田教育長

少しでも小学校の統合が前進し、より良い小学校統合ができるような機会にしていただければと思います。

最終的には５月７日の臨時教育委員会において、３校統合を同時にするのは困難ではないかと委員から意見が出て、この時期に白黒はっきりしておかないと先行きがいけないと言うことで、動議ということで配布した資料のとおりまとめました。それを教育委員としてのまとめとして町長と議会へ渡し、説明した経緯があります。

新聞の報道については、議長に話をしましたが、議長の一存では判断できないため、全員協議会で説明させていただきました。その時に日本海新聞社が取材に入り、翌日の報道に至りました。

この間の経緯は、私は３１年４月に新しい小学校を作り、３校が入るイメージで話をしてきました。しかし、教育委員の中には、南小と西小を先行して２校が統合し、後で東小が統合する意見がありました。教育長としては３校統合をお願いしてきましたが、時期を待てないと言うことで、このようになりました。簡単で大まかにはこのような経緯です。他の委員さんから補足があればお願いします。

藤井教育委員

先ほどの教育長の説明のとおり、以前からずっと２つの意見がありました。３１年４月に３校同時統合か、もうひとつは、３１年４月に南小と西小が２校先行して統合し、その後に教育委員会として新校舎を望んで行き、新校舎建築は早くはならないと思いますが、新校舎ができたその後、東小学校が望む時期に統合するとの意見でした。しかし、その２つの意見がまとまっていませんでした。それは重要なことで、外に向けて話す時には、本来は教育委員の意見をまとめるべきですし、または話し合いで決められなければ、多数決を辞するべきではなかったと思いますが、それを行わずに今まで進んできたことがそもそもの問題であったと思います。２７年度に地方教育行政法の一部が改正され、教育委員長がなくなり、新教育長にこれまでの教育長と教育委員の権限が集約されて責任が強くなり、教育委員のチェックする権限も強化されたはずですが、その役割をきちんと果たせなかったことが、大変申し訳ないと思っています。

青木地域振興監
　これからは、フリートークで参りたいと思いますので、問いかけ等お願いします。

相見（三徳地域協議会会長）
　今の話の中で、決定までの経緯の話がありましたが、今回の決定については動議だったのか、多数決だったのか、裁決なのか、どういう決定の仕方だったのかお願いします。

西田教育長
　いわゆる動議、議案として当初から上がっていたことではなくて、教育委員から提案があり、それについて協議したということです。それぞれの教育委員の意見を聞きました。
私は、３１年４月に新しい小学校を作って、３校が同時に入るという意見は変わりませんでしたが、教育委員の皆さんは、お手元の資料にあるような考えであることを確認して、それを一人ひとり確認されて、４対１で意思の確認がなされました。

相見（三徳地域協議会会長）
　動議とは２人以上ですか。動議でもなく、多数決でもないのですか。最終的には、動議による多数決ですか？

西田教育長
　動議は２人以上ですが、挙手による多数決でなく、この度はそれぞれの委員さんの意見を聞いたうえで決定しました。

相見（三徳地域協議会会長）
　挙手されたなら、はっきりされたと思いますが・・・。簡単に言えば、教育長以外は２校先行統合に動議されたということで、５月７日に決定されたということですか？

西田教育長
　文書作成が、最終的に５月７日ということです。

相見（三徳地域協議会会長）
　実際は、いつ会議がありましたか。

西田教育長
　意見が色々あり前後しましたが、５月７日に臨時会で意見をまとめて決定しました。

相見（三徳地域協議会会長）

４人の委員さんが動議による決定をされたことを初めて聞きましたが、このようなことは教育委員会の中ではいつもあることですか。初めてですか。あるいは、通常ありえないことがされたとの認識ですが、動議を出されたのはどういう経緯があってされたのですか。やはり、ここまで来たらオープンにしないと前に進まないので、差し支えない範囲で、動議に至った経緯を個々にお聞きしたいです。

藤井教育委員

動議と尋ねられましたが。やはり、きちんと教育委員会の意思決定を表明するためには、委員の意見を全会一致させることが当然のことです。先ほど申しましたように、これが行われるまでは、それがまとまっていませんでした。そういうことからすれば、意見をまとめられませんでした。教育委員の意思決定をまとめることが必要だと思って、動議を出させていただきました。３１年４月統合が出ていましたが、１年を切った状況で、各小学校の意見を聞いてみるのに、東小の意見をまとめるには難しい状況でした。そのため、そこにエネルギーをつぎ込むより、むしろ急がれる南小の対策、統合にエネルギーをつぎ込むべきだという判断に至った訳です。そのようなことで、教育委員会の意思決定をはっきりさせるために、動議を提案させていただきました。

芦田教育委員

藤井さんの意見と重なりますが、やはりずっと１年３カ月、２８年１０月に再考されてから３０年４月まで、どういう風に統合したらよいか教育委員会で話し合ってきました。再考に至った理由は皆さんご存じだと思いますが、３２年に新校舎を建てたところに入ることで、東小学校は賛成をいただいていましたが、それが議会で否決されて、３１年３校統合の話は良くないと言うことで先送りしました。３１年統合を模索してきましたが、東小学校保護者に「新しい小学校がどういう教育を目指すか、小学校に入ったらこういう良いことがある、こういう学校だから来てください」ということについて、教育委員の意見がまとまりきらず、４月の臨時会で教育委員４人が２校先行の意見でまとまりました。

中前教育委員

それぞれ色々な意見があったということですが、私は３校で新しい学校を作らないといけないということで動いていました。とにかく３１年には３校統合を思っていました。しかし、いつまで経っても結論が出せない。本当に３校同時か２校先行かでグラグラしていました。早く結論を出さないといけないと思っていました。一番に３１年４月に統合するためにはということを考えました。一番心配したことは、統合するには準備が必要で、校歌、校旗等色々なこと、閉校式の手続き等の仕事もたくさんあります。しかし、統合がはっきり決定しないままズルズ

ル行くと、４月に取り返しがつかないことが予想され、２校でもとにかく新しい学校を作ろうと言うことを考えました。ですが、学校名等の様々な準備は３校の関係者で寄って作り、その代わり最初入るのは南小と西小だと。そのようなことを早く決定しないといけないため賛成しました。一番良いのは、３校統合だと思いますが、ズルズル行くことが問題だと思いました。準備は３校で作っていくことが良いと考えています。

大丸教育委員

色々な会議を何回かしたわけですが、その中で、皆がそれぞれの解釈をして、同じように解釈をしてなかったことがあり、意見の取り違えが色々とありました。はっきりしないことを決定事項としてその都度残しておくこと。議事録を読んでも、どちらでも取れそうで受け取り方が違うことがありました。そして５月７日に教育委員会の方針をはっきりと明確にしました。個人的には３校同時が良いと思っていますが、ちょっと無理かと思います。一番最初に南小と西小の統合の話が数年前にありましたので、それに立ち返ったと思っています。

相見（三徳地域協議会会長）

よくわかりました。もう一点ですが、教育委員がそういう考えでした。町長との協議抜きで、公表されたことになりました。議会に通知すれば新聞報道されるのは分かっていたと思いますが、どうして教育委員会の決定だけで議会に通知されたのか。これが従来からの方法ですか。今回は、違う方法でされたのですか。

西田教育長

前置きとして、先ほど話がありましたように、教育委員会制度が改正になったことがあります。それ以前は教育委員会の方針を決めて町長に意見を提出していました。総合教育会議がありますので、そこで話をすべきですが、「教育委員の決定として教育委員会の意思を町長、議長に渡そう」ということに臨時会でなりましたので、教育委員会の決定に基づいてお渡ししました。いずれにしても、町長と総合教育会議を開催しないといけないと思っています。

相見（三徳地域協議会会長）

そこで決定したと言うことですが、通常のことですか。決定後に議会に説明することが通常のことですか。先ほどの話だと、極端に言うと４対１で色々なことを考えておられたが、らちが明かないのでそのように決定されたと感じました。従来、普通のことですか。普通はそうじゃない、町長と協議し、総合教育会議の開催が普通のことだと思いますが、どうしてこのような経過になったのですか。

藤井教育委員

５月７日に動議をして決めたというのは、決定報告書を出させていただくために動議を出さ

せていただいたというのが正直なところです。実は４月の教育委員会臨時会で、全会一致で２校統合が決まっていました。４月１４日に町長との総合教育会議を開催し、教育委員会は２校先行で行きたい事をお伝えしました。その時に町長がおっしゃったことは、「自分は平成２９年１２月の総合教育会議で３校統合だと思っていた。それは教育委員会の中で決定したことだと思っていたが、実はそうでなかったようだ。それを変更することは説明責任を伴うが、しっかりと説明責任を果たすことをお願いしたい。臨時会の決定を再度検討してほしい。」とのことでした。４月の臨時会で教育委員としての意見は一つにまとまっていたと思っています。その後、総合教育会議を開催しました。

相見（三徳地域協議会会長）
　わかりましたが、町長の意見をしっかり確認せず、どうしてそうされたのですか。

藤井教育委員
　５月７日に報告書を出すことを教育委員会でまとめて、５月２０日に町長に提出させていただきました。

相見（三徳地域協議会会長）
　提出の問題ではなく、徹底的に議論されたのかということです。はっきりしないのは、どうして通常とは違う形で議会に対してこの度の様なことになったのか。そこが理解しにくいです。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　お話を聞いていると、資料には「平成２６年１２月に、教育委員会が３０年までに３校統合が望ましいが、様々な視点で検討を重ねた結果そういう結論になった」ことや、そこに至った経過も書いてあります。しかし今の話だと、「準備が間に合わない」とか、「以前にそういう話があった」という理由で、当初の決定を覆す理由がないように思います。準備の段階でもそういうことだし、それを受けて地域協議会会長も統合準備委員会に加わることが大前提でした。ところが、その統合準備委員会の開催も通知された３日後に中止になり、その後半年後の開催。言ってみれば１年間放ったらかしになりました。その状況で準備の時間がないとは言えないのではないですか。校歌、校章、校名等を協議しましょうとしてきたのに、中止の案内があったり、それっきり。そして、その理由は教育委員が異論をはさんだためだとか。今になって２校先行の理由がわからないです。３校統合の結論を出されながら、今になって理由づけか全くできないと感じます。

高見（竹田地域協議会会長）
　準備不足とか準備の期間がないとか、３校が理想だということを言われました。三朝町の３校を１校にしようとした背景の中に、切実な思いがあったと思う。このことを決定されたのも

教育委員会。今回の「統合を白紙にした」のも教育委員会。さらに「３校統合」を再度提案されたのも教育委員会。さらに「２校先行、１校後追い」を決定されたのも教育委員会。このことは、「教育委員会には教育に関する非常に大きな権限を付与されている」ということ。「権限を自由自在に操られるということによる関係者の動揺は計り知れないものがある」ということを分かっていただきたい。南は数が少ないから文句を言わないとか、東は少し数が多いから小規模校ではあるけど統合は我慢できるとか、このような議論が先行すること自体が、教育委員会の教育方針の決定の中で、非常にプロセスがおかしいと思う。この辺についてどういう風に感じておられるのか。

藤井教育委員

　統合のことをずっと考えてきましたのに、教育委員会のなかでは、やはり新しい校舎の中で３校統合したいという願いがあったわけです。ですからそのために先回までも、大変苦しい状態ではありましたが、新校舎に向けて統合する努力はしてきましたけれども、これは叶いませんでした。

　次にどうすればいいか。それぞれの学校の状況をしっかりみることではないか。保護者の思い、子どもたちの状況、先生たちの考え、そのためにはどうすればいいかということを考えました時に、やはり、南小の１学年１人は早急に対策をたてなければならないと思いました。東小につきましては、もちろん３校ともそれぞれ特色ある学校経営をされておりますし、素晴らしい教育をされております。特に東小のほうは、東小に満足していると、ただ、新校舎であれば、そうでなければ納得できないということが書いてありました。ですから、根底に東小の教育を残したいという思いがあるわけです。南小もそうだろうと思うわけです。南小の素晴らしさがありますし、それでずっと続けれるものならそれはそれで私はいいことだと思う。ただ、やはり人数が少なかったのは放っておけない。そこに関して急がねばならないものを感じております。

　ですから、その場合に南小の方が心配されておりますのは、西小に行った時に「吸収」という言葉をよく使われる。吸収されてしまうのではないか。そういうことを心配されておりました。

　私は、吸収という言葉は教育の場では使うべきではないと思います。例えば営利目的の企業であるとか、団体であるとか、組織であるとか、そういうことであるなら、吸収ということはあるかもしれないが、教育の場においてはやはり、むしろ、融合とか融和とか調和とか、そういうことを目指すべきだ。そういうことを考えた場合にどうしたらいいか。新しい校舎を建てる見込みもない。南小に対する対応が一番急がれるのではないか。となると、やはり２校先行ではないかという考えをずっと持っておりました。

　そのことが、教育委員会のなかでは、なかなかひとつにまとまりませんでした。やはり従来通り３校同時統合がいいのではないか、それは３２年に新しい指導要領が実施されます。そのことを見越したときに、英語の導入、５・６年生が授業化される、３校同時の方が良いのでは

ないかという考えがありましたけれども、その辺が一致できなかったということが原因であります。

藤井（みささ村地域協議会会長）
吸収という言葉は誰がいったのですか。どこから出てきた言葉ですか。

藤井教育委員
保護者の方が私に言われた言葉です。

藤井（みささ村地域協議会会長）
ですから、皆さんが色々な思いを持っていますが、だれかが吸収という言葉を言ったからといって教育委員会が取り上げて、それによって方針を変えるというのは、ちょっとおかしい。ひとり一人の意見を聞いて、物事を判断するのですか。誰かが言ったから方針を変えましょうかとなるのですか。その形では全くおかしいと思います。吸収なんて言葉はどこにも出ていない話です。

山﨑（賀茂地域協議会会長）
私は、教育環境というのは、ピカピカの建物の中に入って、過ごせて、勉強ができるということが教育の原点ではない。ということは、そういう理想な形にいくまでに、いろんな苦労しながら、あるいは・・・・最終的には理想のところに持っていきたいというのが教育現場、あるいは地域の人たち、いろんな人たちが当たり前のように、「苦労したけどやっとここまで来たわな」　そんな積み上げの課程があってもいいと思う。ということは、その一部、たとえば東小校区の保護者の方が、それだったら新しい建物で、というような、これはあくまで保護者の意見であって、教育の在り方の原点は、まず３校が一緒になるべきだという、その原点が、確実に皆さんの共通な部分があるとするなら、その環境や条件が少々異質のものであっても、やはりスタートさせるべきだ。つまり、当初の方針どおりの動きに持っていく必要がある。もっていくべきではなかったのかと思います。
もう少し言いますと、世の中の最近の傾向なんですが、どうしても、保護者や家族が自分のところの子どもを視点、子どもをレンズにしながら教育を見てしまう。自分の思いをあまりにも言い過ぎてしまう。そうではなくて、三朝町が少子高齢化になって、このことは十年も前から言われていますが、２０２５年問題もまさに直ぐやってきます。そんななかで、我々の少なくなった子供たち、数が少なくなった子供たちの教育環境をどうするべきか。切り口をそこから、もう一度入っていけば、南小のような、あるいは東小のような、数の問題でいろんな感情的な情緒的な話が出てくることはないと思います。
もうひとつ、昨年から感じていることを言います。町内の３小学校合同の運動会が春にあります。去年、機会があって見に行きました。西小の校舎側にテントを並べて、何百人もの生徒

がいます。プール側にテントを２つ立てて東小と南小がいます。それがいわば、沢山生徒がいた時代の図式そのものが、生徒数が減ったいまでもそのままであり、私は、こんな図式は異常だと感じました。今年もあまりにもその状況を見てですね、あまりにも子供たちの今の思い。保護者の思いと子どもたちの思い。ひょっとして違っているのではないかと思うぐらい、なんか雰囲気を感じてですね、一刻も早く解消しなければならない。そう思いました。個々の意見はいろいろあっても、こうしなければならないという根っこの部分を大事にして、いろいろ障害がある、それは日程的なことやらいろいろあるのかもしれない。少々それは・・・例えば、体育館にござを敷いて、机を並べてスタートしてもいい。私は、それくらいの思いを持って３校統合を進めていただきたい。今でも思っていますし、まだ、これからでもやれるのではないか、そういう思いも感じております。誰がどういったからではなくて、今、我々が何をすることが大事なのかということをもう一回考えていただきたい。

朝倉（小鹿地域協議会会長）
２２日に新聞報道があって、２３日に小鹿地域の議会報告会がありました。3月定例会の報告ということではありましたが、新聞報道の話題になってしまいまして、これまで３校統合と言っていたのに、なんで２校先行になるのか。４人の人が意見を言われました。なんで東小が置いて行かれなければいけないのかという意見でした。私は、東小学校ＰＴＡの要望書を見ていないが、少なくとも小鹿地区の意見としては、統合するなら３つの学校が同時ということで、地域住民は強い思いを持っていると受け止めました。学校がなくなると地域がさびれるということもありますし、そういうことも考えながら、やはり、子どもの教育を考えると、少人数の教育には限界があるということで、地域の人も３校同時統合が進んでいくんだなという認識をもっておられたし、そういう説明を受けてきましたので、地域の皆さんは（今の状態に）不信感を持っておられるように受け止めました。
今、山﨑会長も言われたように、方針は一度決定したら、きちんと進めてほしいと思います。２か月前までは３校同時統合の方針だったと思いますので、再考願いたいと思います。

相見（三徳地域協議会会長）
せっかくですからね、委員さん４人にも発言をしていただきたいと思います。なかなかこういう機会はありませんから。誰がどういう風に思っておられるのか、はっきりおっしゃってほしい。

藤井教育委員
何について話せばいいのか。

相見（三徳地域協議会会長）
今回こういうことになったのは、教育委員さんがどういう考え方をされて、話し合いで動議

が出されたり、そういうことも含めて、今日は、委員さん一人ひとりの考え方を伺ってみたいと思っています。

高見（竹田地域協議会会長）

３校統合は、なんとなく描けるが、２校統合で１校後追いというときに、新しい小学校というのは、三朝町の将来の１校の小学校というものを立ち上げるということですか。そういう意味ですか。そうしたときに、校区の設定は町全体で１校、新しい小学校は町全域が校区になるのですか。そこが、よく理解できない。先行されたときに、東小はそのまま残る。西と南の統合小学校が１つできる。時期が来た時に、東小学校を統合小学校と一緒にして、またすり合わせをするというような流れですか。

それとも、町１本の新しい小学校が１つできたら、校区は全部その小学校の校区。だから東小は分校的な考え方の学校になるんですよ。そういう話なのか。その辺の校区設定とか、新しい小学校の位置付けが良く分からない。どういう風に考えているのか。

藤井教育委員

少なくとも、分校のことは考えていない。

藤井（みささ村地域協議会会長）

多分そうでしょう。今、高見会長が言ったのは、即、そういうことを考えていかなければいけない。そういうことになるということが言いたい。分校のことは考えていなかったということか。考えずに２校が先行して、その時に校区はどうするか。全町にすれば、東小の生徒はいなくなってしまう可能性だってあります。

今は校区があるから、東小の人が西小に行きたいといってもそれはできない。そういうことになっている。今、高見さんが言ったようなことは、校区をどう考えているのかということです。「分校にしたくない」ということではない。そういうことも考えて、２校先行の決定がされているのかということです。感情的な問題ではない。理論的に説明していただきたい。

中前教育委員

当初考えていたのは、新しい小学校に３校が集まって統合するという考え方。本当は、東も一緒になればいいのだけれど、今回はできないということだったので、東は残って。これは、今言われるように不純なところがあります。

実際は、分校は当然避けたいわけだから、そういうことができるかどうか県に聞いてもらっています。結果はまだ。

藤井（みささ村地域協議会会長）

その結果はどうだったのか。

結果を知らずに２校先行の決定をされたのか。

中前教育委員
そういうことになる。

藤井（みさき村地域協議会会長）
そういうことでいいのか。
そこははっきりされたほうがいい。

西田教育長
新しい小学校を立ち上げて、３つの小学校が集まる。その際、２校先行して新しい小学校に入った時に、東小学校と仮の名前として三朝小学校ができる。制度的には、この後また統合しなければならない。三朝小学校ということになると、校区の設定が１つになると三朝東校舎となり、これは分校扱いにしかできない。これは確認している。
細かい話をしますと、法律で決まった教員の定数がありまして、分校にすると加配で２名教頭先生が受けられますが、現在の状況では、危機管理の面で相当困難を有すると校長先生は見ておられます。制度的には、三朝小学校を立ち上げて、東小学校を残すということは、後に新たな三朝小学校をもう一度つくることになるということです。
現実的なやり方としては、東小学校を分校として残すことになるのではないか。
校区設定の問題は、非常に難しい。校区については、教育委員会の中でも特例を設けて、校区をはずして自由に動けるようにするとか、東小学校を残す場合、分校の校区を設けてそこにいなさいといえるのかどうか、校区の問題は引き続き残る課題です。

山﨑（賀茂地域協議会会長）
そういう、不合理というか、非常に現実と離れたようなことは、そんなところまでいくと、この議論はどこまでもいってしまう。私がお願いしたいのは、もう一回原点に戻れないかということです。原点に戻れば、いろいろな問題点がありますが、そこに、町民、地域、保護者も含めて、小さい反対や強硬な意見はあるとしても、次の世代にバトンタッチするための、今回の統合の動きになっていくべきではないのかな。そう思います。今の教育長が言われることは、なかなか理解できない。

高見（竹田地域協議会会長）
私がその話で一番心配するのは、方針がころころ変わる。決定事項で「新小学校を設定する」とは書いてあるが、「準備ができなかったけど２校先行だ」「看板外して、西小学校の制服を着させよう」そんなことにならないよう、くれぐれも頼んでおきたい。これだけころころ変わると、この調子でまたずっと準備が足りなくなる、準備期間がなくなった、決めなくてはいけな

いことが決まらない、そうなったときに、でも２校はしたい。するべきだと思いますが、その時にそういう扱いになると、南のこれまでの一つの学校として、校区を設定された地域として、それだけは納得がしがたい。要するに、方針を決める時には、全て法律の世界ですから、そのあたりの法律がどうなるかということまで見越したうえで、結論を出すべきではないかということです。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　もう一点お伺いしたい。東小学校については平成３２年度以降に新小学校に入るとなっていますが、この「東小学校が新小学校に入る」ということは、新小学校がやはり一本だと思いますし、その入る条件とは何か。どういう条件が整えば、東小学校が３２年度以降に入れるか。その条件はどういう風に考えているのか。こうなったら一緒になる。ならなかったら一緒にならないということですよね。さっきの話では、新しい小学校が建設されなければ一緒になりませんという、それがさっきのお話の中では、東小学校はどうですかといったら、今度は行政任せではないですか。今、行政は４８億の予算しかないのに、３６億も何億もかけて、新小学校を建てるということになると、これからの人口減少を考えたときに、中学校をどうするかという議論も起きてくる。延々いつまでも小学校の建設は決まっていかないことも想定される。決まらないということになると、東小は（新小学校に）入りませんということで、ずっとこれからも行くのかという話。そこの（東小が）入れる条件をお聞かせ願いたい。３２年度以降どうなったら入るのか。教育委員会としては、入れるということを、どう決定されるのですか。何をもって。

西田教育長
　私の認識としては、その条件は決められていません。議会の方々からもその質問があって、言えることは、毎年、入るよう声掛けをしていく。藤井会長がおっしゃるように、延々と続くことになるかもしれない。ですから声掛けをするしかない、というお話をしたところです。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　ですから、そうすると、３校統合を決定した教育委員会は「決定した理由」と、東小学校との、ＰＴＡとの条件闘争になるということですよね。そんな教育ってあるのですか。条件が整えばというような教育方針ってありえない。だからこの決定（２校先行）は問題があると思わざるを得ない。全く皆さんが納得のいく、我々でなくてもいいですが、町民に対して、納得のいく説明ができるという自信があればいいですが、もう一回、（今までコロコロ変わったのだから）考えて、変わってもいいではないか。「ああは言ったけどやめました」でどうですか。我々に説明をするということは、我々はこれを持ち帰り、住民に説明する義務がある。今の話を住民に持って帰れない。だから町民に対して、どっちみち保護者の話、さっきもいろいろ言われたが、今は保護者の話を聞いたでしょ。たとえば、来年子供がいなくなっちゃうし、今は

いた１年生でも６年したらいなくなる。そのいなくなる保護者だけの意見でどうするかということもある。ですから、皆さん言われてますが、方針的には、教育というものについて考えをもって、やられるのが望ましい。教育を条件闘争にしてはいけない。全く子どもを無視している。要するに子どもをもて遊んだような教育というのは、いけないと思う。

芦田教育委員

すみません。教育方針、新しい小学校を立ち上げるにあたって、今までの三朝の教育ビジョンをたたき台にして、教育大綱が作られています。そのなかで、新小学校はどういう目標を持っていくかということについて、教育委員会では、この１年考えてきました。
話してきました。しかし、なかなか新しいことが、まとまり切れていないところがあります。まとまっているところを言いますと、今の子どもたちというのは、将来は、私たちの時代とは変わって、人工知能、ＡＩというものが発達するなかで、いろいろな職業がなくなっていく、その詰め込みとか、知識とかいう問題だけではやっていけない、職業がなくなってしまうのではないか、では、人間として生きる力をどうつけていくのか、考えたときに、三朝町だからこそできる、ふるさと教育、たとえば、大自然を活かして、どういう風に体験させるだとか、地域の方々にも協力していただいて、いろいろなことに体験を含めて、参加していただく、プラス三朝町は観光の町でございますので、今、文科省が３２年から、小学校の５、６年生に７０時間、英語科という教科を設けます。三朝町の３小学校でも、今、その教育を行って、先行して週に２時間、年間７０時間、５、６年が取り組んでおります。教育大綱を読んでいただければわかると思いますが、教育大綱の中にも書かれておりますが、英語で、小学校６年間プラス中学校３年間、９年間で三朝町の観光案内を英語でできる力をつけようじゃないか、というプログラムをつくろうじゃないか、できれば、保育園も巻き込んでやろうではないかということで、今、教育委員会で考えております。

どういう教育が必要か、もちろん、プログラミングの教育も入りますので、そういうコンピュータルームもいるだろうし、英語がいるから英語の教室もいるだろうし、３２年度からの新学習指導要領に書かれていますように、主体的で深い学びをするために、個人のレベルに、今、算数の教科でやられていますが、少人数学級で、３つの学級に分かれてする少人数学級の指導も行われています。そういうことに耐えられるような、今の校舎では到底無理なんです。現状を申し上げると、少人数学級をするのに、図工室や家庭科室が使われています。図工室や家庭科室の机はどういうものかご存知だと思いますが、中央に大きなテーブルがあって、皆で囲んでするというのが家庭科室なのです。それでは、なかなか前を向いて算数をするという環境ではないのです。なので、そういう理由で私達は新校舎にしたいということを考えてまいりました。

なぜ２校先行にしたかというと、本当は少し年数を待ってまでも３校同時ということができれば理想でしたが、３１年の４月に南小が待てない状況なのではないかということが前々から私達は考えておりました。朝倉さんが教育長をされていた時からそうだったと思いますが、３

０年に南小は１７人しかいません。３０年に南小は一緒になるべきではないか。主体的で深い学びは、１学年１人とか２人とかでは、先生は努力されていますが、なかなかできない状態にあります。何回か見に行きましたので。それは無理があるんじゃないかなということで、実は、昨年から西小と交流学習を週１回しています。今年度は来年の統合に向けて、木曜日に全校が来て交流学習をするという統合準備のための交流学級をしています。なぜなら、町内の小学校に同じような教育環境を平等な教育環境を置きたいという、私達の方針で学校側にお願いして交流授業をしていただいているところです。

３１年４月にどうしても、どうしても南小と西小は・・・。高見さんご存じだと思いますが、南小は1年１人、２年１人、３年５人、４年３人、５年２人、６年５人です。私は毎週授業に入らせていただいていますので、わかりますが、やはり１人や２人では、本当に学習が、指導要領がいう深い学びや多様な価値観をするという教育が難しいのではないかと判断して、南小を先に2校先行とさせていただきました。なので、教育方針を考えてないとか、子どものことを考えてないという訳でないので、誤解のないようお願いしたい。

藤井（みささ村地域協議会会長）

だけど、今おっしゃったことによると、新校舎がないと統合できないということですよね。

芦田教育委員

理想はそうだったのです。31年に新校舎に入る方針を決めたのは私達だったので。

藤井（みささ村地域協議会会長）

ただ、今おっしゃったのは、いま統合すると西小学校ではキャパがダメだと言うことですよね。そう言うことなら、新校舎ができないといつまでたっても統合できないということですよね。

芦田教育委員

ですが、改修をお願いしておりますし、そのやり方も考えておりますが、ただ３１年度には間に合わなかったことを御理解いただきたい。すみません、うまく説明できなかったらすみませんでした。

相見（三徳地域協議会会長）

お話を聞いていると、ざっくりいうと、委員さんは、何人か知りませんが最初から２校統合で来ていましたと。以前からずっとありましたと。しかし表面的には、3校統合ということでずっと来ました。今回、２８年に出たということがありましたが、強固な意見があって、説得しないと理解していただけないと。方針として来年統合と来ていると。そして南小の事情もある。そのようなことで独断で決めましたと。なので、地域に意見を聞いていないし、地域とい

う言葉が一切出てこない。職務権限があることはわかっていますが、だけど、高見さんが言われたように、権限を振りかざして、それは常識的なことかな、一般的にちょっとおかしいことじゃないかと思う。教育委員さんはちょっとどうかなという考えはなかったし、今もないということですか。

これからも、「決定したからこれで行きますよ」と聞こえるのです。教育長は３校でとおっしゃってるし、町長ははっきりされてないよう。議会の報告とか決定の仕方は全く対立しているようで。ですから、「教育委員に職務権限があるからこれで行きますよ」と、説明もどうかなと、そういうことに聞こえるのです。そういうことなのでしょうか。そういうふうなことで、私達は権限もないし、参考意見で言うくらいしかない。ただ、考えていただきたいのは、統合とは、学校は地域の密接なつながりがあるので、一番考えるのは、地域は子ども、子どものため。親のエゴでも何でもない、委員のエゴでも思いでもない。子どもにとって早く決めてあげて、早く正常化して、前に向かってするのが一番なのです。色々あります。反対意見もあるでしょうけど、何にしても一緒なのです。聞いていると、４人がいらっしゃって、多数決があって４対１と、それで行くよというような・・・。

朝倉さんから再考という意見がありましたが、そういうこともないし、それについて意見もないし。ですから、泥試合みたいになっていく。それって、新聞報道されていくので、言葉は悪いが、町内だけでなく他にも色々な話がいきますし、これでいいのかなと。前から思っていましたが、今回のことでさらに感じました。やはり、教育委員さんが決める権利があることは良いが、ただ、「これこれこういう理由でこうしないといけないので決めました」とか、「こういう意見がありましたが、こういう理由で決定しました」とか、普通は権限があったら決められるのです。しかし、決めるということは説明責任がある。それは、地域であり、保護者であり、町民なのです。そういうことの配慮というか、今までの話を聞いていると、今までのことを含めてそういうことがない。色々なことも秘密で非公開で一切わかりません。ですから、もっと、教育委員会の中をオープンにされて、公の場でわかるように議論し、結論を導いていくと。当然、反対意見がありますが、「私達の意見はこうで決めました」というのが普通のやり方で、私は民間でしたので、社会としてはそうではないかと思います。委員さんの意見は個人の意見として良いですが、それをあまり前面に出してされる、もうちょっと全体とか将来とか・・・。

朝倉（小鹿地域協議会会長）

教えていただきたいですが、３１年４月の南小と東小の児童数の予測を教えてください。

藤井教育総務課長

平成３０年５月１日現在で想定した資料ですが、南小は現在１７人、３１年１５人。東小は現在４３人、３１年４５人。西小は、現在２５８人、３１年２４２人です。

朝倉（小鹿地域協議会会長）
　やはり、芦田委員がおっしゃったが、小学校統合問題が出てきた元々のことは、子どもの人数だと思う。少ない子どもの数の中で、子どものためになる教育ができるかを考えないといけないと思います。今人数を聞いて、南小は減る、東小は若干増えるということですが、これまでの方針を教育委員会で説明されてきましたので、何かと事務的な部分は大変かもしれないが、従来の方針通りで進めていただけないかと思います。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　前段に、山崎さんがおっしゃったように、校舎が狭いとか物理的な部分はやり方によっては何となく解決できると思う。最終的には新校舎だろうと思うが、現在の段階でやろうと思えばできると思うが。基本的な部分はやり直しができないので、そっちを優先してほしい。物理的な部分は別として。教育委員会として、新校舎ができないと統合できないと言うなら、教育の在り方を丸投げにしたようなことだと思う。行政が校舎を建ててくれなければ、何も自分たちの教育ができませんというように聞こえてしまうので、そっちの方は行政との話し合いの中で物理的なことは解決できると思う。さっきの話じゃないが、体育館に机を並べてというように。基本的な学校教育の部分を優先された方が良いと考えます。

中前教育委員
　今、色々な話を聞いていて、やはり考えて行かないといけないと思うし、公にしていかないといけないと思います。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　多分、３校同時でも、この１年の有り方で考えれば、極端な話、プレハブの教室なんて１ヶ月でできてしまうし。「そうすれば、校庭が狭くなる」なんてことは言わず。山側の木を伐採すればスペースができるし何かできると思うのです。物理的なことで教育委員会があれこれ判断することは、無理があるのではないですか。人頼みになってしまう話なので。行政がしてくれないから教育委員会が機能しませんとは、町民は困ると思うのです。まあ、再考をしていただきたいとお願いしたい。

相見（三徳地域協議会会長）
　あと、地域が困ることは、色々なうわさが飛び交い、コロコロ変わる。それぞれの保護者間でも疑心暗鬼になり、一方では新聞報道がポンポンされ、何も説明がなく結論だけが先行して、これはやむを得ないことも分かりますが、住民の立場を教育委員も重く感じていただき対応をお願いしたい。とにかくお願いしたい。私は三徳ですから、極論を言うと、地域住民の間でごたごたというか、感情が気まずくなったり、「あの人はこう言っている」という話が、狭い地域、特に三朝なので。そうすると、それぞれの生活まで影響が出てくる。ですから、非常に微

妙なことなのです。思っていることが言えない人もあります。何でもそうです。声の大きい方もあります。それでいいのですが、やっぱり考慮していただいて、本来どうあるべきか、先ほど言った２つを本当に真剣に考えていただきたい。そういうことで決断、決定しましたと言うことであればいいです。地域の住民に聞くと、保護者も賛成反対がいらっしゃる、色々と意見も聞きますが、どっちがいいか私も正直わかりません。だから、それはそれで、やはり同じ集落の中でもつれが出てくるとか、私も思ったことを言いますので、そうじゃなくて、地域がまとまっていくためには、小学校統合が円満というか理解を得ていうか、一部反対があっても反対の人にも説得して、100%でなくてもある程度理解いただいて持って行っていただきたい。これが地域としての本当のお願いです。みなさんもそう思われている。教育委員さんも権限があるし、行政もあるのでそれで良いが、隠れた本当の確信を感じていただき、決定とかの中に想っていただき、それでも決定されるのは良いが、一番困るのがそう言うことです。最近現にあります。それが一番困ります。

藤井（みささ村地域協議会会長）

　もう一つ、学校の統廃合が、教育委員会の問題だけでなく、学校跡地をどうするかという地域の問題でもあります。東小学校がこれで決定したとあれば、当然今までも案が出ているから、それぞれの地域の中で、学校跡地をどうするかどう生かすかを話されてきた。ところが、今回、東小学校が統合しない、いつになるかわからないということであれば、地域というものが、学校跡地を使って何を考えるかどうするか、全く計画が立たないことがある。安易に先に延ばす話はされるべきではないと思うのです。地域の関わりは大事なことなので。当然、跡地問題は行政を巻き込んで大事になってくる。だけど、当てのない協議をするのかということですよね。だから、東小学校はいつになるかわかりませんという話であれば、地域はいったい何をすればよいかということです。そこも考えていただかないと。単なる学校の話だけではないのです。地域を生かすか殺すかということも絡むのですよね。だから、東小学校が「生殺し状態」を続けて行くか地域も併せて、子どもも併せて。だから、責任があるのではないですか。その責任をどう取っていただけますかということです。

西田教育長

　ちょっと確認です。相見さん、藤井さんの言われたことは、教育委員としてこの決定を住民にも知らせる、そういう場を持って話をしに来てほしいという意味合いも含まれているのですか。

相見（三徳地域協議会会長）

　いや、それは、こちらが強制することではないので。

西田教育長
　教育委員会が行うとして、例えば、東小校区で三徳がお集まりいただいて説明させていただくとか。

相見（三徳地域協議会会長）
　説明されるなら、口頭だけでは受ける方の都合の良いように受け取られる。文書ではっきりして、後で補足説明されるようでなくては。何か訳が分からないことではなく。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　ここに至った経過、それとメリットとデメリット。検証が必要ですね。一つの決定には結果に至った経過の報告と、これにより発生するメリットとデメリットがあり、何をしたらどうなるか、最終３校統合に至るにはどうしたら叶うのかということがないといけない。それがないと、決定した理由がなくなってしまうのですね。決定には説明責任が伴う、言いっぱなしではいけないと思う。そうすれば、紙で出されないといけないと思います。出せと言うならですが。私は西小校区ですので。

西田教育長
　分かります。
　統合する時は、西小も御三方の協力を得ながら閉校式も行わないといけない。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　だけど、そうは言いながら、やはり「決定に至った良くなること、悪くなること、それを踏まえて決めたということ、そして３校統合になるためにはどういう道筋があるか」を示されないと、２校先行の理由が成り立たないと思います。説明責任をお願いします。

相見（三徳地域協議会会長）
　三徳からも再考をお願いします。

藤井（みささ村地域協議会会長）
　今日集まった皆が、再考していただきたいと一致した意見です。それらについては、当然、議会なりも関係する。教育委員で再考できるのか、町長に要望書を出すか、議会に再考を促す要望書をだすのかは、これからだと思います。

以上